

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	伊丹市立保健センター等複合化施設整備工事	階数	地上2F
建設地	兵庫県伊丹市千僧1丁目1番地1、39番1の一部	構造	S造
用途地域	第二種住居地域、第二種中高層住居地域	平均居住人員	320人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,293時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年9月 予定	評価の実施日	2020年12月23日
敷地面積	5,751㎡	作成者	株式会社 山田総合設計 深尾 元詞
建築面積	1,748㎡	確認日	2020年12月23日
延床面積	2,165㎡	確認者	株式会社 山田総合設計 深尾 元詞



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

①参照値 100%
②建築物の取組み 82%
③上記+②以外の 82%
④上記+ 82%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合 緑地を設けることにより、良好な景観を形成している。 敷地や建物の植栽条件に応じた適切な緑地づくりを行うなど、環境に配慮している。 日中多くの時間を過ごす空間に自然光を取り入れ暖かみのある室内環境を確保している。		その他 特に無し
Q1 室内環境 複層ガラスの採用、断熱材の強化により外皮性能を上げるなど温熱環境に配慮している。 また、F☆☆☆☆建材を全面的に採用し、全館禁煙とするなど空気質環境にも十分に配慮している。	Q2 サービス性能 天井高を高くするなど心理性・快適性に配慮している。 雨高を高く設定し、壁紙比率を小さくすることにより空間にゆとりをもたせている。 内外装補助汚性に対応した材料を使用するなど維持管理に配慮している。 電気設備については多用途電線、単相電源設備を採用、情報通信設備については通信設備の多様化、また、補修必要期間の長い外装材、仕上材、配管材を採用するなど建物の耐用性・信頼性に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地や建物の植栽条件に応じた適切な緑地づくりを行っている。視線を遮らない様な樹木の配置、防犯カメラの設置など防犯性に配慮している。 空地率を大きくし、また、中高木を植栽することにより敷地内温熱環境の向上に努めている。 緑地を設けることにより良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー 断熱材を強化し、建物の熱負荷を抑制している。 高効率空調機、LED照明、Hf蛍光灯、高効率給湯器を採用するなど設備システムの高効率化に配慮している。	LR2 資源・マテリアル 省水型機器を用いるなど水資源を保護している。 ノンフロン断熱材を採用するなど汚染物質含有材料の使用を回避している。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率を80%とするなど、地球温暖化への配慮をしている。 適切な量の駐輪場・駐車場を確保し利便性に配慮。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される